

学 校 教 育 目 標	本気で勉強しよう 心をみがき、体をきたえよう 人のためになろう
目 指 す 学 校 像	「笑顔あふれる宮前小」 ○あいさつが響き合う学校 ○子ども一人ひとりが、生き生きと活動する学校 ○子どものために、全職員が共に励まし、力を合わせて働く学校 ○絆を深め、保護者や地域の人々と協働する学校 ○明るく、清潔で、美しい学校

重 点 目 標	1 学びの質の向上に：学校課題研修の推進と教職員の指導力の向上 2 子どもの発達や心のサポート：教育相談体制の充実 3 地域とともにある学校づくり：地域・保護者と絆を深める学校づくりの推進 4 教育環境の整備：安全安心な環境整備と施設管理 5 教職員のキャリア形成：プラントを活用した研修の推進と教職員の勤務時間の管理
---------	---

※重点目標は5つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。
※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、
方策の評価指標」を設定。

達	A	ほぼ達成	（8割以上）
成	B	概ね達成	（6割以上）
度	C	変化の兆し	（4割以上）
	D	不十分	（4割未満）

学 校 自 己 評 価								学校運営協議会による評価	
年 度 目 標					年 度 評 価			実施日令和 年 月 日	
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校運営協議会からの意見・要望・評価等	
1	〈現状〉 ○R6 全国学調の「知識・技能」では国語 6.7p減・算数 3.7p増、市学調の「知識・技能」において、国語 10.2p増・算数 0.3p増であった。 ○R6 全国学調の「思考・判断・表現」では国語 2.3p増・算数 4.0p減、市学調の「思考・判断・表現」において国語 5.1p減・算数 1.7p減であった。 〈課題〉 ○学習を振り返る経験はあるが、学び方は適切だったか、その時間の課題を達成するために自分の学習能力は満足するものか、達成できない際はどのような力が足りないのかという振り返りをできるようにするための手立ての検証。	○学校課題研修「学びのつながりを意識して、自分の考えを広げ深められる児童を育成」の推進	○教科部(国語・社会・算数・理科)ごとに市教委より指導者を招き、研究授業・研究協議会を実施する。また、研究授業者以外の教員もいずれかの教科で授業を公開する。	○R7 全国学調及び市学調の国語・算数の「知識・技能」「思考・判断・表現」の自校結果を R6 の値より向上させることができたか。 ○各教科における「宮前スタイル」を全教職員が日々の授業で実践できたか。					
		○「学びの指標」を活用した教職員の指導力の向上	○「主体的な学び」「探究的な学び」「ICTの活用」を意識した授業実践ができるように、「学びの指標」集計システムを活用し、指導・助言を行う。	○第2回目の「学びの指標」の集計結果の全職員の平均値を、1回目と2回目を比較し、上昇したか。					
2	〈現状〉 ○心と生活のアンケート後の面談は時間を確保して児童一人ひとりと話を聞くことができる。また、詳しく記録を残している。 ○S C、S S Wと担任の情報共有ができている。 〈課題〉 ○S C、S S Wとの面談時間の優先の調整 ○学びの多様化を図るための Sola ルームの充実	○教育相談体制の充実	○教育相談主任を中心に、S C、S S W及び生徒指導主任、特別支援コーディネーターと連携し、連絡調整、情報収集、情報共有を行う。	○R7 学校自己評価「教育相談」に係る項目に肯定的な回答をする児童・保護者・教職員・地域の方々の割合が R6 より増えたか。					
		○Sola ルームの環境整備と運営の充実	○Sola ルームに主任児童委員からボランティアを募り、説明会を実施後、入室児童の見守りに参加してもらう。 ○Sola ルームで心地よく活動ができるよう机・椅子、パーティションなどを配置する。書籍・コミュニケーショングッズを整備する。	○全教職員が Sola ルームの運営について理解し、協力体制が構築されたか。 ○地域(主任児童委員)と協働しながら、Sola ルームの運営ができたか					
3	〈現状〉 ○R6 学校自己評価「あいさつができる」の質問に肯定的な回答をする割合は、児童±0p・保護者 2.6p減・教職員 3p減・地域±0pであった。 ○地域・保護者に向けて50周年記念行事等を公開し、参加者から好評な意見がもられた。 〈課題〉 ○あいさつの励行は、特別活動部を中心に継続して地域・中学校と連携して取り組んでいく。 ○学校運営協議会で、学校での児童の活動の様子がもっとわかるようにしてほしいというご意見をいただいた。	○地域・保護者と連携した「笑顔あふれる」あいさつの励行	○おはよう活動を1学期は学級単位で、2学期は縦割り異年齢グループと地域(育成会)で、3学期は児童会と中学生徒会で実施する。	○R7 学校自己評価「あいさつができる」の質問に肯定的な回答をする児童・保護者・教職員・地域の方々の割合が R6 より増えたか。 ○地域・中学校と連携してのあいさつ運動を各学期1回以上実施できたか。					
		○地域・保護者に向けた教育活動の公開・発信	○地域・保護者に向けての特色ある学校行事・学年行事等を公開する。 ○学校HPに活動の様子を掲載する。	○各学年が特色ある行事を公開できたか。 ○公開行事参加者から肯定的な意見がもられたか。 ○学校HPの教育活動の様子を毎月更新できたか。					
4	〈現状〉 ①R6 学校自己評価「安心・安全」に関する質問項目において、肯定的な回答をした児童の割合は8割以上の肯定的回答を得ることができた。 〈課題〉 ○安全指導の充実・徹底を図り、児童に「自分の身は自分で守る」意識をもたせるとともに、保護者、地域と連携しての見守り活動の一層の強化に取り組んでいく。	○確実に迅速な安全点検の実施	○毎月の安全点検を行い、安全主任から管理職までのチェック体制を確立し、不具合等の早期対応を行う。	○安全点検が確実にかつ迅速に実施ができたか。					
		○安全指導の充実・徹底	○引き渡し訓練、一斉下校、登校指導の実施について改善に向けた取組の充実を図る。	○R7 学校自己評価における「安心・安全」に関する質問に肯定的な回答をする児童の割合が R6 より増えたか。					
5	〈現状〉 ○学校課題研修も含め、教師としての資質向上に意欲的に取り組む姿勢がある。自発的な勉強会なども開催している。 ○とても熱心に教育業務に取り組むが、時間の配分がうまくいかず、時間外勤務の規定に近い教員もいる。 〈課題〉 ○時間外在校時間を意識して業務に当たるようにする。 ○メリハリをつけて、見通しをもって業務に取り組めるようにする。	○管理職との対話を通して教職員一人ひとりが主体的に取り組む個人研修の推進	○教職員一人ひとりが、人事評価当初面談時に、「キャリア振り返りシート」を用いて、課題を明らかにし克服するための研修会を管理職と話し合いながら決め、受講する。	○教職員が研修会を受講し、そこでインプットしたスキルを授業や組織にアウトプットできているか。（自己評価シートの研修の成果欄の表記で確認する。）					
		○時間外在校時間を意識した勤務への取組	○具体的な数値削減を意識できるように個票に毎月の時間外在校時間を記入させる。 ○ノー残業デーを水曜日に限らず、月1回は定時より前に休暇等を取得して退勤する「プライベートデー」を設定する。	○全職員の時間外在校時間の平均を昨年度の数値より減少させる。 ○プライベートデー取得率を90%にする。					

